

第133回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	現	金	過	不	足	当	座	預	金	受	取	手	形						
売	掛	金	前	払	金		仮	払	金		有	価	証	券						
支	払	手	形	買	掛	金	当	座	借	越	前	受	金							
仮	受	金	所	得	税	預	り	金	資	本	金	損		益						
仕		入	旅	費	交	通	費		租	税	公	課	支	払	手	数	料			
雑		損	売			上			受	取	手	数	料	有	価	証	券	売	却	益

1. 額面総額 ¥ 1,000,000 の株式会社ネットラボの社債を額面 ¥ 100 につき ¥ 94.5 で購入し、代金は購入手数料 ¥ 20,000 とともに小切手を振り出して支払った。なお、当座預金の残高は ¥ 800,000 であるが、借越限度額 ¥ 500,000 の当座借越契約を締結している。
2. 仕入先内山商店から商品 ¥ 500,000 を仕入れ、代金のうち ¥ 330,000 については上田商店振出し、当店受取りの約束手形を裏書譲渡し、残額については内山商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払った。なお、引取運賃 ¥ 4,000 については現金で支払った。
3. 店舗兼住居用の建物・土地に係る固定資産税 ¥ 240,000 と、店主の所得税 ¥ 180,000 を現金で納付した。なお、固定資産税のうち 30%については店主個人の住居部分に対するものである。
4. 現金の実際有高が帳簿残高より不足していたため現金過不足勘定で処理していたが、本日、旅費交通費 ¥ 70,000 が記入漏れとなっていることが判明した。
5. 損益勘定の記録によると、当期の収益総額は ¥ 4,800,000 で、費用総額は ¥ 4,000,000 であった。この差額を資本金勘定へ振り替える。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	有 価 証 券	965,000	当 座 預 金	800,000
			当 座 借 越	165,000
2	仕 入	504,000	受 取 手 形	330,000
			支 払 手 形	170,000
			現 金	4,000
3	資 本 金	252,000	現 金	420,000
	租 税 公 課	168,000		
4	旅 費 交 通 費	70,000	現 金 過 不 足	70,000
5	損 益	800,000	資 本 金	800,000

・解説

1. 有価証券の購入と当座取引に関する問題です。

まず有価証券の購入に関してですが、ポイントは取得原価に付随費用（取得に伴い発生した費用）を含めて資産計上するだけです。

$$\text{取得原価} = \text{購入代価} + \text{付随費用} = 1,000,000 \text{ 円} \times 94.5 \text{ 円} / 100 \text{ 円} + 20,000 \text{ 円} = 965,000 \text{ 円}$$

次に、当座取引の処理に関しては【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つが考えられますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。

本問は、問題に列挙されている勘定科目に当座預金・当座借越勘定がある（当座勘定がない）ので、2 勘定制で処理すると判断します。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の仕訳（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上や債権の回収など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問の場合、問題文に「当座預金の残高は ¥ 800,000」とあるので、まずは当座預金を残高がゼロになるまで減額し、残額の 165,000 円（=965,000 円 - 800,000 円）については当座借越勘定で処理します。

★解答・当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の仕訳

(借) 有価証券 965,000 / (貸) 当座預金 800,000
(貸) 当座借越 165,000

■当座勘定のみを使う 1 勘定制の仕訳（参考）

参考までに 1 勘定制による場合の仕訳も確認しておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って機械的に処理するだけなので 2 勘定制よりも簡単です。

☆当座勘定のみを使う 1 勘定制の仕訳（参考）

（借）有価証券 965,000 / （貸）当座 965,000

有価証券の購入に関する問題は、第 103 回の問 5や第 108 回の問 4、第 119 回の問 2、第 121 回の問 5、第 124 回の問 5、第 138 回の問 1、第 143 回の問 1、第 148 回の問 3で出題されています。

また、当座取引に関する問題は、第 100 回の問 2や第 103 回の問 5、第 104 回の問 2、第 105 回の問 1、第 114 回の問 5、第 121 回の問 5、第 122 回の問 2、第 125 回の問 5、第 129 回の問 1、第 134 回の問 3、第 135 回の問 5、第 136 回の問 5、第 137 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【裏書手形に関する仕訳】【約束手形に関する仕訳】【引取運賃に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【裏書手形に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ¥ 330,000 については上田商店振出し、当店受取りの約束手形を裏書譲渡」とあるので、当社が所有している受取手形を細川商店に譲渡する仕訳をきります（受取手形勘定を減額する）。

★解答仕訳①

（借）仕入 330,000 / （貸）受取手形 330,000

【約束手形に関する仕訳】

問題文に「残額については内山商店を名宛人とする約束手形を振り出して支払った」とあるので、残額の 170,000 円（=500,000 円-330,000 円）を支払手形勘定で処理します。

★解答仕訳②

（借）仕入 170,000 / （貸）支払手形 170,000

【引取運賃に関する仕訳】

引取運賃などの付随費用は、商品を仕入れるさいに不可避免的に発生する費用なので、仕訳を切るさいは仕入勘定に含めて処理します。

購入代価（500,000 円）+付随費用（4,000 円）=商品の仕入原価（504,000 円）

★解答仕訳③

（借）仕入 4,000 / （貸）現金 4,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

3. 資本の引き出し・租税公課に関する問題です。

まず、店舗兼住居用の建物・土地に係る固定資産税 240,000 円に関しては営業用（事業用）と店主用の 2 つに分けたうえで、前者を**租税公課**で費用処理し、後者を**資本の引き出し**として処理します。

なお、本問は問題で列挙されている勘定科目の中に資本金がある（引出金がない）ので、資本の引き出しに関する仕訳は**資本金で処理**します。

- ・ 70%は営業用 → 168,000 円 (=240,000 円×70%) は**租税公課**で費用処理
- ・ 30%は店主用 → 72,000 円 (=240,000 円×30%) は**資本金の減少**として処理

★解答①

(借) 租税公課 168,000 / (貸) 現金 240,000
(借) 資本金 72,000

また、店主の所得税を会社が肩代わりして支払った場合は**資本の引き出し**として処理します。

★解答②

(借) 資本金 180,000 / (貸) 現金 180,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

資本の引き出しに関する問題は、第 102 回の問 3や第 106 回の問 4、第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 114 回の問 2、第 117 回の問 5、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 126 回の問 5、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 135 回の問 4、第 136 回の問 1、第 139 回の問 4、第 145 回の問 1、第 147 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。

租税公課に関する問題は第 106 回の問 4や第 107 回の問 2、第 111 回の問 3、第 122 回の問 1、第 125 回の問 2、第 127 回の問 5、第 129 回の問 5、第 135 回の問 4、第 137 回の問 2、第 139 回の問 4、第 141 回の問 5、第 146 回の問 3、第 147 回の問 2、第 150 回の問 5でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

4. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「現金の**実際有高**が帳簿残高より不足していたため現金過不足勘定で処理していた」から、帳簿残高を**実際有高**に合わせるために以下の仕訳を切っていたことが分かります（※金額は不明）。

☆参考：現金のズレを調整したときの仕訳

(借) 現金過不足 ? / (貸) 現金 ?

現金過不足の仕訳を考えるさいは**常に実際有高に合わせる**のがポイントです。本問の場合、実際有高のほうが?円少ないので、同額だけ現金の帳簿残高を減らしてズレを調整します。

上記の仕訳を踏まえたうえで、問題文に「**旅費交通費 70,000 が記入漏れとなっていることが判明**」とあるので、借方に計上していた現金過不足を旅費交通費に振り替えましょう。

★解答仕訳

(借) 旅費交通費 70,000 / (貸) 現金過不足 70,000

現金過不足に関する問題は、第 110 回の問 4や第 111 回の問 4、第 115 回の問 1、第 117 回の問 1、第 123 回の問 2、第 135 回の問 1、第 142 回の問 5、第 147 回の問 1、第 150 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 損益の振り替え（決算振替仕訳）に関する問題です。

問題文の「当期の収益総額は ¥ 4,800,000 で、費用総額は ¥ 4,000,000 であった」から、以前に以下の 2 本の仕訳を切っていたことが分かります。

☆参考：収益と費用を損益に振り替える仕訳

(借) 諸収益 4,800,000 / (貸) 損益 4,800,000

(借) 損益 4,000,000 / (貸) 諸費用 4,000,000

この 2 本の仕訳の結果、損益勘定が **800,000 円の貸方残になる**ので、同額を資本金勘定に振り替えます。

★解答仕訳

(借) 損益 800,000 / (貸) 資本金 800,000

損益の振り替えに関しては、以下のような流れで機械的に、サクッと処理することもできます。参考までにご確認ください。

- ・収益総額 > 費用総額 → **利益**が発生 → 資本金が**増える** → 資本金が**貸方** → 損益が**借方**
- ・収益総額 < 費用総額 → **損失**が発生 → 資本金が**減る** → 資本金が**借方** → 損益が**貸方**

損益の振り替えに関する問題は、第 105 回の問 5や第 107 回の問 5、第 125 回の問 4、第 150 回の問 2でも出題されているので、本問とあわせてご確認ください。